



# 広島西ロータリークラブ会報

No. 2045

THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA WEST

例会日・木曜日 12:30~13:30  
例会場・ANAクラウンプラザホテル広島  
会長 井原 俊彦  
幹事 香川 基吉

事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78  
リーガロイヤルホテル広島13F  
TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870  
E-mail:hwrc@godorc.gr.jp  
広島西ロータリー <http://www.hwrc.jp/>

RIテーマ Reach Within to Embrace Humanity  
「こころの中を見つめよう  
博愛を広げるために」

本年度会長テーマ  
「ユーモアでロータリーに  
もっともっと笑顔を」

## 「新世代のための月間」

2011年9月29日 第2021回例会

### ◆ 会長時間 ◆

井原会長



ロータリーとロータリアンは進化しつつある？

RI会長バネルジーさんがロータリーの友9月号でこう述べられています。“ロータリーは若い会員をつれてくる必要があります。しかし多くの若い世代の居場所はインターネット、フェイスブック、ツイッター、Eメール、それにスマートフォン上です。インターネット上に存在しないクラブは若い世代に関する限り存在しないと言っても過言ではありません。”

さあ大変ですね。ロータリーの近未来を予言している言葉のようにも思われます。

我々人類は約1万年前の農業革命以降も、肉体的にも精神的にも加速度的に急速に変化して来ていることが最近の分子遺伝学的な研究で判明してきました。

急激な進化の原因をつくっているのは社会と文化の環境変化であり、その変化が遺伝子レベルの進化を推進し、人間の生物学的変化がまた環境を変化させてきているのです。

中世、ドイツと周辺国に住んでいたアシュケナージ系ユダヤ人は西暦1000年頃から1700

年頃迄迫害され、職業制限を受けていました。ヨーロッパに、0(ゼロ)の概念の無かった時代に多くのユダヤ人が利息などを計算しなければならない、キリスト教では不浄とされた金貸業など複雑な管理や金融の仕事に長い間ついていたのです。その間ユダヤ人同志の結婚を繰り返していたこともあって、突然変異による重篤な脳神経系の遺伝病をもつ率が高くなった一方、知能指数が上昇し、過去50年間の科学関連のノーベル賞の4分の1以上の受賞者を出すようになりました。また今日アメリカではビジネスにおいてはCEOの約5分の1を占め、またアイビーリーグの学生の約22%はユダヤ系だそうです。

身近な日本では第二次大戦以降60年が過ぎ、我々の子供や孫の世代で明らかに身長が伸び、脚が長くなっているし、顔の輪郭も少しずつ変わりとつあります。

またRI会長が言われるようにこの10年間、パソコン、ケータイを通してのみ物事を考える、即ち深く思索することをさける若者の急増は明らかです。こういった社会の変化により骨格や筋肉あるいは神経回路を我々と異なる方向に進化させる遺伝子的な変化も起こりつつあるかも知れません。

我々はホームページをキチンと改訂し続けない

といけません、5年後には週報はパソコンやケータイの画面でみてペーパーレスするというように適応し、10年後にはそれが当たり前という進化(?)の道をたどるのかも知れませんが…。

**川西祐二会員に  
RLI(第3期RLI  
-2710パート  
Ⅲ卒業プログラ  
ム)卒業証書及  
びバッチの伝達**



**会務報告** 香川(基)幹事

瀬地区大会バスのご案内

例会臨時変更

- 10月 5日(水) 広島陵北RC-職場訪問例会に変更
- 10月11日(火) 広島安芸RC-職場訪問例会に変更
- 10月24日(月) 広島中央RC-職場訪問例会に変更
- 10月25日(火) 広島安芸RC-10月26日合同夜間例会に変更
- 10月26日(水) 広島東RC-合同夜間例会に変更
- 10月28日(金) 広島城南RC-職場訪問例会に変更

**委員会報告**

**出席報告** 鮫島副委員長

本日(9月29日・木曜日)  
 会員数 83名 出席者 70名  
 欠席者 13名 ご来客 2名  
 ご来賓 1名 ゲスト 0名  
 計 73名  
 前々回(9月8日・木曜日)  
 出席率 100%



**社会・新世代奉仕部門** 瀬尾理事

9月8日に行ないました社会・新世代奉仕部門クラブフォーラムのアンケートと調査報告をBOXに入れております。

その中から抜粋してご紹介いたします。

**テーマ「認知症の人と家族を地域社会として支援することを学ぶ」**

質問1 今回のフォーラムで認知症についての認識が一層強まりましたか。

5	かなり強まった	20名	40%
4	強まった	25%	50%
3	ふつう	5名	10%
2	あまり変わらない	0名	0%
1	変わらない	0名	0%



認識が強まった、かなり強まった方が45名 90%であった。視点を変えれば、現状についての認識が低いとも言える。

質問2 今回のフォーラムを受けてご自身及びご家族が認知症になった時の選択肢に役立ちましたか。

5	かなり役立った	19名	38%
4	役立った	22%	44%
3	ふつう	9名	18%
2	あまり役立たなかった	0名	0%
1	役立たなかった	0名	0%



選択肢にかなり役立った、役立った方が、41名 82%であった。視点を変えれば、現状は選択肢が少なかったとも言える。

**【まとめ】**

今回のクラブフォーラムの目的は、「認知症の人と家族を地域社会として支援することを学ぶ」について気づき、考えることであります。

参加会員50名のアンケート結果では、認知症についての認識が強まった方が45名(90%)、ご自身及びご家族が認知症になった時の選択肢に役立った方が41名(82%)という高い関心事であったことは、誰もがなりうる病気であり、ご家族を含めて身近な社会問題として強く認識されていることがわかりました。フ

オーラムで興味がわいたご意見は39件ありました。家庭・社会支援関連は21件、病症・医療関連は11件その他7件でありました。例えば「会社で認知症サポーター養成講座を実施する」意見は注目される。

「認知症の人と家族が安心して暮らせる社会」をどの様に構築するかのご意見は35件ありました。社会支援構築関連は24件、ロータリー活動関連は11件でありました。社会支援を構築するキーワードはコミュニケーションであり、患者、家族、近所、地域、行政、医療機関等が相互に理解し合うハード支援、ソフト支援の意見が多数出ました。ロータリークラブ活動関連では、現状では、ロータリー活動では難しいご意見から施設への寄付及び次世代の若者達への教育・道徳観の育成及び地域での認知症講演会支援・広報活動など興味深い意見が出ました。

将来的には、認知症は必ず到来する大きな社会問題であり、ロータリークラブ活動として取り組むテーマとして協議されるであろう。その際には今回のアンケート調査結果が有効な資料に役立つと考えます。

最後に、パネリストの日域会員（精神科医）森信会員（グループホーム事業）小田会員（民事弁護士）の皆様にはご専門のお立場からの貴重なご意見を頂きましたことに感謝を致します。

✳ SAA 齊藤委員長

10月より席替えを行ないます。(血液型別です)

## ● 同好会報告

🏹 紫雀会 岡田世話人

紫雀会の9月月例会が9月15日庚午クラブで開催されました。

成績の方は岡野さんがダントツの優勝、刀禰さんが準優勝、木本さんが3位でした。

今回は私岡田が欠席で詳細は不明なのですが、またまた7月に復帰したばかりの岡野さんが優勝ということで皆さんにチャンスがあるということだと思えます。次回も数多くの皆さんにご参加いただければと思います。

次回10月の月例会は10月20日の第3木曜日を予定しておりますので宜しくお願いいたします。



奥様お誕生日おめでとうございます。

(7名)

沖 君	智子夫人
加藤君	眞美夫人
鈴木君	美方子夫人
佐伯君	祐子夫人
木村君	美奈子夫人
高橋君	三和夫人
中村(哲)君	律子夫人

👑 8月決算月おめでとうございます。

(1名)

小橋君 コアサ興産(株)



## ● スマイルボックス

SAA 垂井委員

☺ 垂井君 (自主申告ダブル)

9月25日から第24回世界建築家会議が開催されています。その中のシンポジウムで「再び、都市広島の夢」と題して、持論を発表されました。益々のご発展をご期待申し上げます。

☺ 金本君、木村君

9月14日～16日まで、第32回日本公認会計士協会研究大会が開催されました。全国から1,000名近くの参加者があり盛会をお慶びし、お二人の益々のご発展をお祈り致します。

☺ 長谷川君 (自主的にダブル)

9月4日広島GC鈴峯コースにて寿杯コンペが開催されました。長谷川君はグランドシニアの部でグロス88、HC18、ネット70という素晴らしいスコアで優勝されました。益々ゴルフに精進されますようお祈り致します。

☺ 高橋君

広島銀行は安芸太田市の「ひろぎんの里山」にクリ等の苗木300本を植樹されました。当日は高橋君を含め180人が参加されたそうです。今後5年間で1,500本の植樹の計画があります。環境保全活動に積極的に取り組まれ益々のご発展をお祈り致します。



## 筆の町「熊野」の 地場産業の挑戦

広島筆産業(株)  
代表取締役社長  
**城本 健司氏**

弊社は筆の町「熊野」で140年以上に亘り筆作りを行っている地場企業です。本日は熊野の筆作りの歴史とこれからの挑戦についてお話させていただきますと思います。

### 1. 熊野筆の歴史とシステム

熊野町は、四方を海拔500m前後の山々に囲まれた小さな高原盆地で、広島、呉、東広島市の三つの市に囲まれるように南北に細長い形をした人口約24500人の小さな町です。筆の原料（穂首となる動物の毛や軸の竹・木）は一切地元にはない町にどうして筆づくりが始まったのか？江戸時代末期頃、平地の少ない熊野村では、農業だけでは生活が苦しいため、村の若者が農閑期を利用して近畿地方に出稼ぎに行き、帰りに筆や墨を仕入れて行商しながら山陽道に戻って来ていました。その内何名かは筆や墨の作り方を習得して熊野に帰ってきました。その後広島藩の工芸の推奨により、全国に筆、墨の販売先が広がり本格的に筆づくりの技術習得を目指すことになりました。

転機は明治5年の学校制度の制定です。学校教育の中で筆が使われるようになり、熊野では子供が書き易かつ購入し易い筆を開発し、生産量が大きく増加しました。この頃から筆を大量生産するシステムも構築しました。しかし、第2次世界大戦後にはGHQの方針で習字教育が廃止され、書筆の生産量が大幅に落ち込みました。この頃から画筆、化粧筆の生産が始まり、昭和40～50年代には画筆の輸出が盛んになります。更に、昭和46年から習字教育が復活し、昭和50年には通商産業大臣により熊野筆が伝統的工芸品に指定されました。しかし、平成以降画筆は海外製品にとって代わられて輸出が止まり、化粧筆の生産が本格化しました。

このように時代の波に翻弄されながらもその都

度新たな活路を見出してきて、現在は書筆、画筆、化粧筆を生産する日本一の筆の産地になっています。

熊野筆の生産の特徴は分業制です。原毛、穂首、軸、ダルマ、鞘等の専門業者が町内に存在し、各メーカーは町内に独自の内職職人を確保し、穂首の生産を自社の工房だけではなく特定の内職職人にも委託します。各メーカーはこの「内職出し」から帰ってきた穂首や自社製の穂首を軸に練り込んで完成品にし、全国に販売しています。

### 2. 新しい取り組み

古い体質の業界ではありますが、今後は顧客の満足度を高める為に消費者の動向を踏まえたAIDMA理論等に基づいた科学的なマーケティングが必要であり、筆事業協同組合や商工会等による業界全体での組織的・継続的な国内外での宣伝・広告活動が必要と考えています。

生産についても海外の工場との競合もありますが、時には協働も必要と認識しており、常に100%の良品を納期に間に合わせて出荷しようとする永久運動から、製品、素材、製造方法、システム等のイノベーションを図ろうと努力しています。

### 3. 現状の問題点と今後の課題

職人の高齢化・減少から若手職人及び若手従業員の発掘と育成は急務です。官民一体となって、町と熊野筆事業協同組合による「マイスター・スクール」の充実を図り、職人の育成や経験、ノウハウの継承に努めています。また、外部からの異質の人間の採用やグローバルな人材の育成を図っています。

我々のような中小の地場産業の生きる道は、消費者に受け入れられる商品の開発をし、海外市場を求めて、日本ブランドの叡智を結集して、民間中小企業同士で協働し合っていくことが重要と考えています。確かな技術と信頼で頑張る「熊野」の筆を今後とも宜しくお願い申し上げます。

### ● 卓話予告

日時	テーマ	
10/13(木)	職場訪問例会	於:ガストピア